



株式会社ジーエヌアイグループ

あゆみ製薬ホールディングス株式会社の完全子会社化について

We Bring New Hope to Life

Agenda

- 1. 本件ハイライト**

- 2. 本件概要及び戦略的意義**

- 3. あゆみ製薬ホールディングス概要**

- 4. ジーエヌアイグループ概要**

1. 本件ハイライト

本件ハイライト



あゆみ製薬

あゆみ製薬ホールディングスの**株式100%**を米投資ファンドBlackstoneを中心とする株主から**448億円（株式価値・見込み）**にて取得し、完全子会社化を予定

あゆみ製薬の**カロナール**はアセトアミノフェン**国内市場で80%以上のシェア**を占め、グローバル市場においても疼痛領域において不可欠な存在。整形外科領域での強固なプレゼンス、リウマチ領域における安定的な存在感を誇る主力製品を有する製薬会社

本件を通じて、あゆみ製薬の国内事業基盤の統合により**ジーエヌアイグループの国内経営基盤の強化**を実現し人員基盤を拡大、加えてジーエヌアイグループの開発製品や海外医薬品・バイオシミラーの国内市場への迅速な導入・展開を見込む

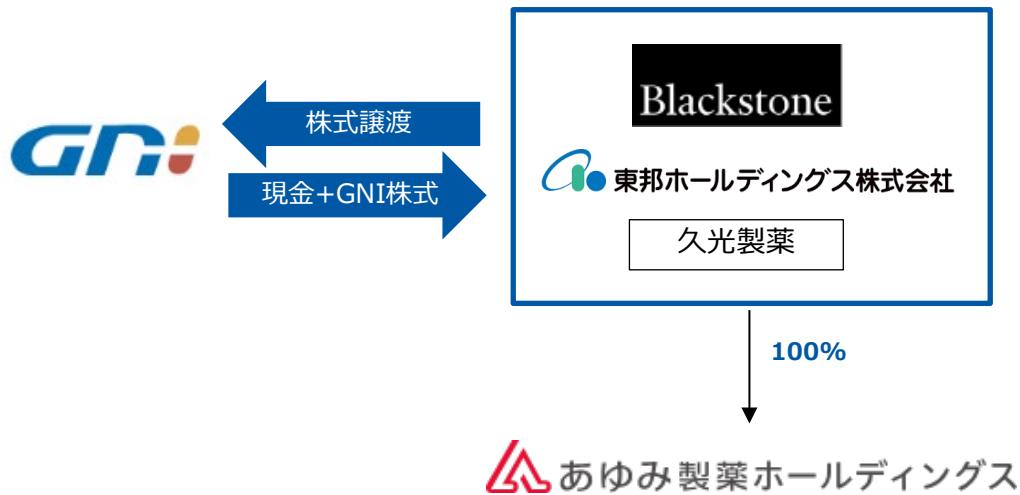
あゆみ製薬とともに、グローバルバイオ製薬企業として成長を加速

本件概要

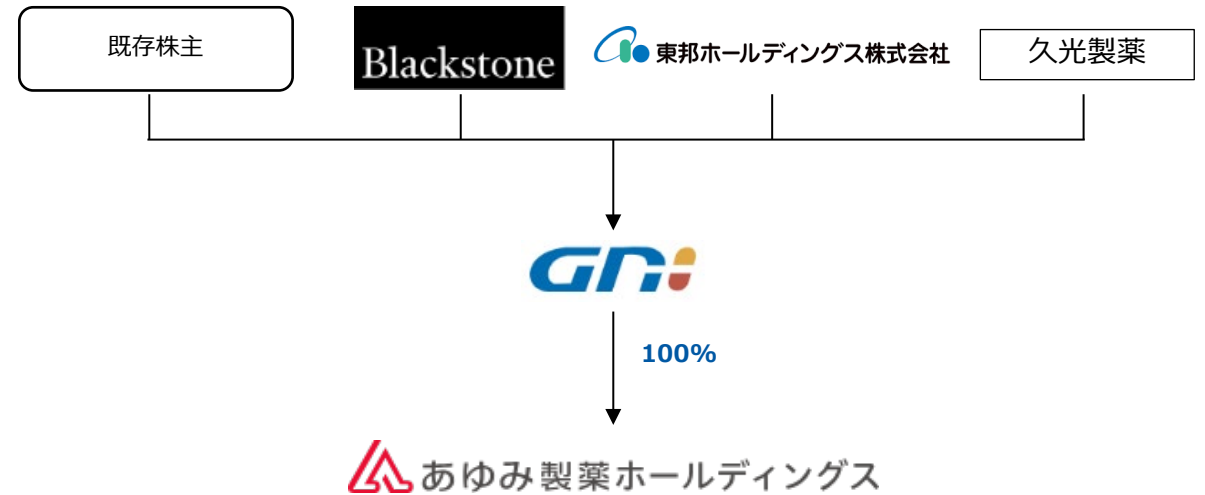
当社は、Blackstone/東邦ホールディングス/久光製薬より、現金+当社株式を対価として、
あゆみ製薬ホールディングスの全株式を取得

■ 本件ストラクチャー

既存株主3社から現金+株式対価であゆみ製薬HD株式を100%取得



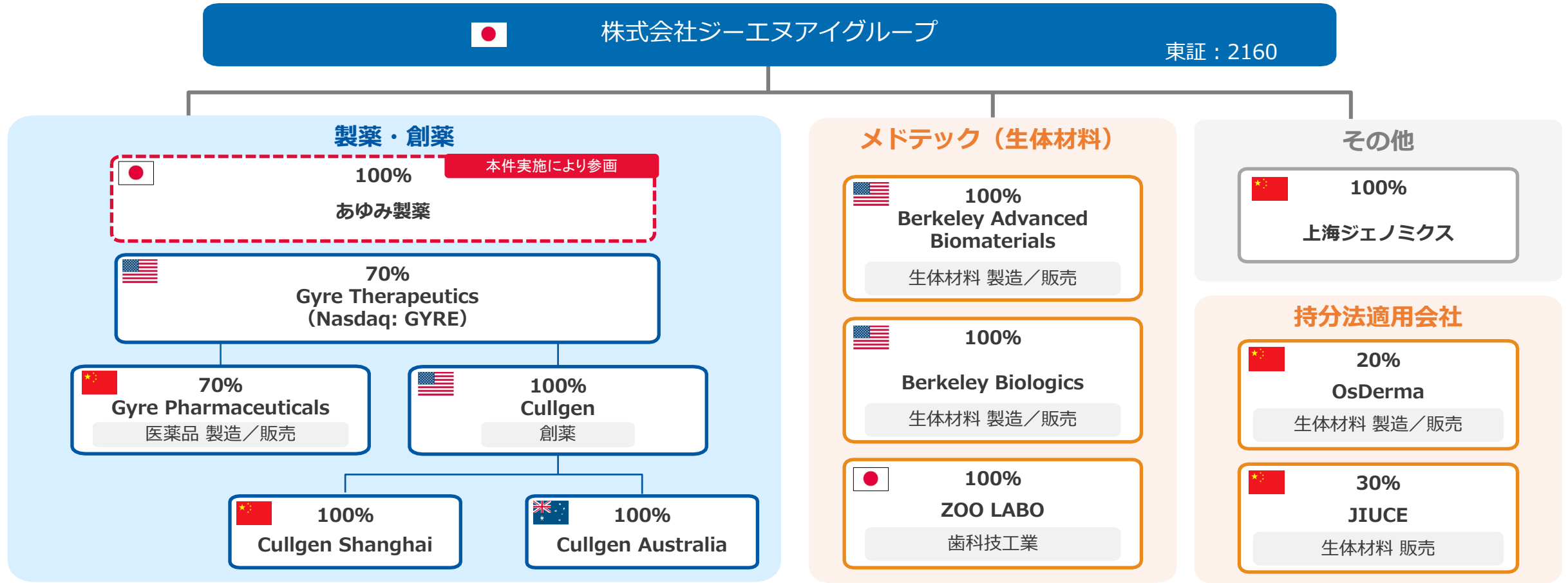
本件実行後



100%株式を約448億円で取得。対価は180億円を現金、268億円相当をGNIの新株式を発行し、本件売主に割り当てる

本件完了後のグループ体制

日本の医薬品プラットフォームを基盤として、より強固かつ多様化された事業運営を実現し、医薬品・バイオテクノロジー・医療機器の各分野にわたって、よりバランスが取れた持続可能な収益基盤を構築



※本グループ体制図は、視認性の向上を目的として再構成しております。一部のグループ会社は図中に記載しておりませんが、これらの会社が解散または売却されたことを意味するものではありません。保有比率は四捨五入しており、実際の比率とは異なる場合がございます。

2. 本件概要及び戦略的意義

本件実施の戦略的意義

① 大規模かつ高品質なプラットフォームへの構造転換とパイプラインの拡充

- 新たなライセンス機会の活用を可能とする、日本における大規模かつ継続的な収益基盤のある製薬プラットフォームの確立
- 日本市場は臨床におけるイノベーションと品質をリードし続ける点は不変
- 日本・米国・中国におけるバランスの取れたエクスポージャーによる地政学的リスクの低減と、グローバルな持続的成長を支えるプラットフォームの構築

② リウマチ、整形外科、疼痛領域で確立されたネットワークとノウハウの獲得

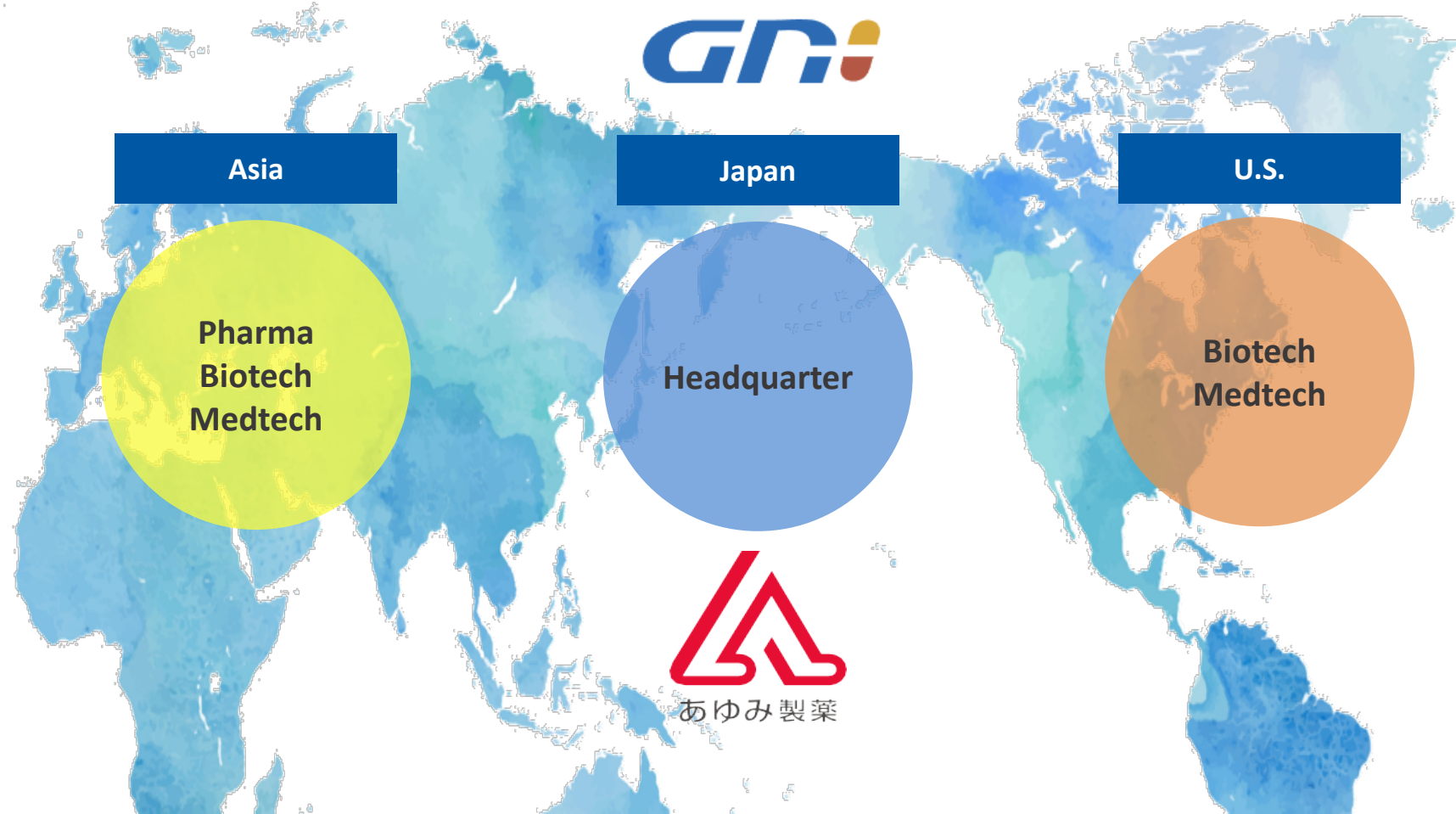
- GNIの医薬品事業と高い戦略的親和性を有し、リウマチ・整形外科・疼痛などの魅力的な領域への展開を強化するとともに、財務の安定性と予見性を向上
- 急性期・慢性期患者のニーズに対応する幅広い医薬品ポートフォリオを実現する統合プラットフォームの提供

③ 長期的な株主価値の向上

- 経営基盤の拡大や製品ポートフォリオ全体でのクロスセルに基づく今後のシナジー創出を通じた資本効率の改善
- 次世代の技術およびイノベーションに対する新規投資を支えるキャッシュ創出力の強化

グローバルバイオ医薬品企業として日本市場でのプレゼンス拡大

ジーエヌアイグループは製薬事業における日本の強固な事業基盤を獲得
海外ネットワークを駆使した更なる成長を志向



海外ネットワークを活用してのあゆみ製薬との成長

あゆみ製薬ホールディングスの強みを活用し、ジーエヌアイグループの開発製品や急成長中の海外医薬品・バイオシミラー製品の日本への導入・展開を見込む

あゆみ製薬ホールディングスの強み

日本全国の医療機関に対する
強固な販売ネットワーク

疼痛領域でのカロナールを軸とした存在感と
成長ポテンシャル

リウマチ領域における圧倒的な販売力と製品
ラインナップ

GNI開発製品/海外医薬品市場の製品を 日本市場に迅速に展開

- **今後の中国市場における先発品の成長**
先発品への投資増加等により、中国市場は引き続き成長を続ける見込み
- **価格優位性と規模による強み**
開発の速さ、安さ、規模の大きさで他国の製薬企業を凌駕する勢い
- **国際的な評価向上**
厳しい比較試験の導入や、FDA/EMAの承認数増加によるグローバルからの評価向上



海外発のバイオシミラーを日本に導入

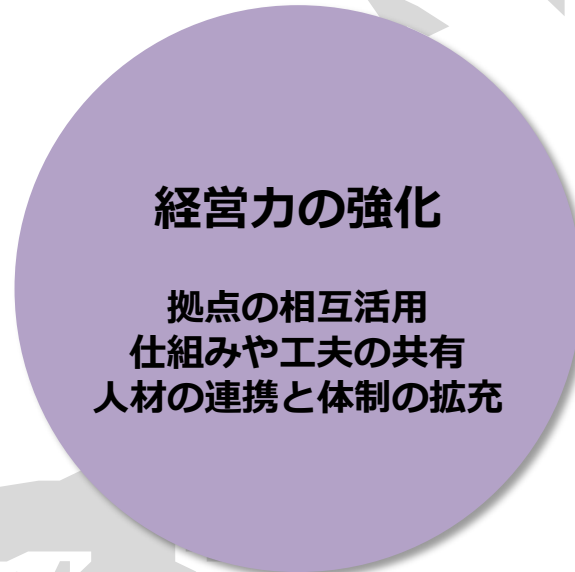
- **国際的なバイオシミラー市場の成長**
GNIが展開する市場において、バイオシミラー市場は2021年以降年平均10%以上の成長（CAGR）を遂げており、今後もこの成長の継続が見込まれる
- **海外バイオシミラー製品の日本市場への導入**
GNIのグローバルネットワークを活用し、海外バイオシミラー製品を日本市場に導入
- **ライセンスアウトの実施**
バイオシミラーに対する需要の拡大に伴い、クロスボーダーでのライセンスングおよび市場拡大の機会を創出

当社とあゆみ製薬ホールディングスの経営基盤の相互利用によるグループ経営力の強化

「拠点連携」「仕組み共有」「人材拡充」により、強固な基盤を構築



イン・ルオの経験豊富で強力な
リーダーシップと、献身的な経営
執行チーム

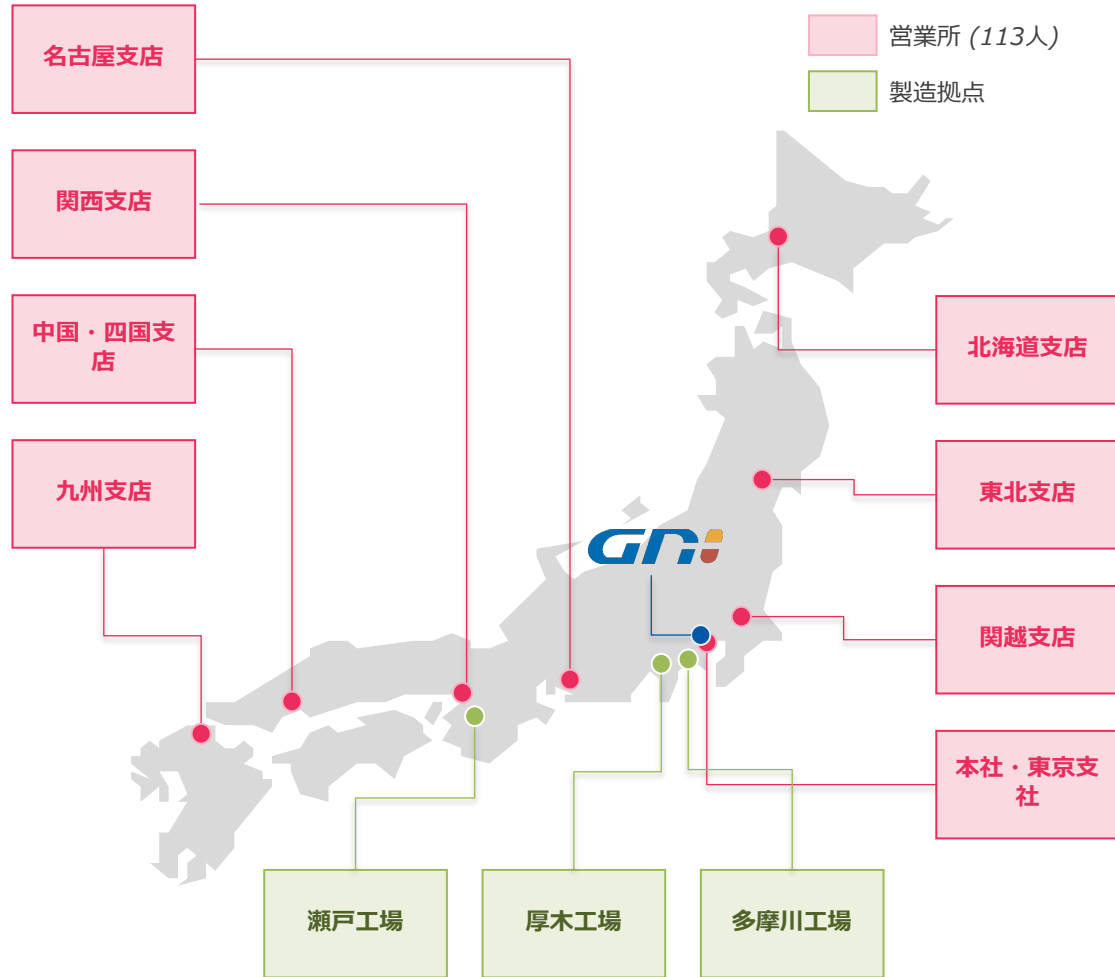


シニアリーダーシップの更なる昇華
国内経営基盤の強化



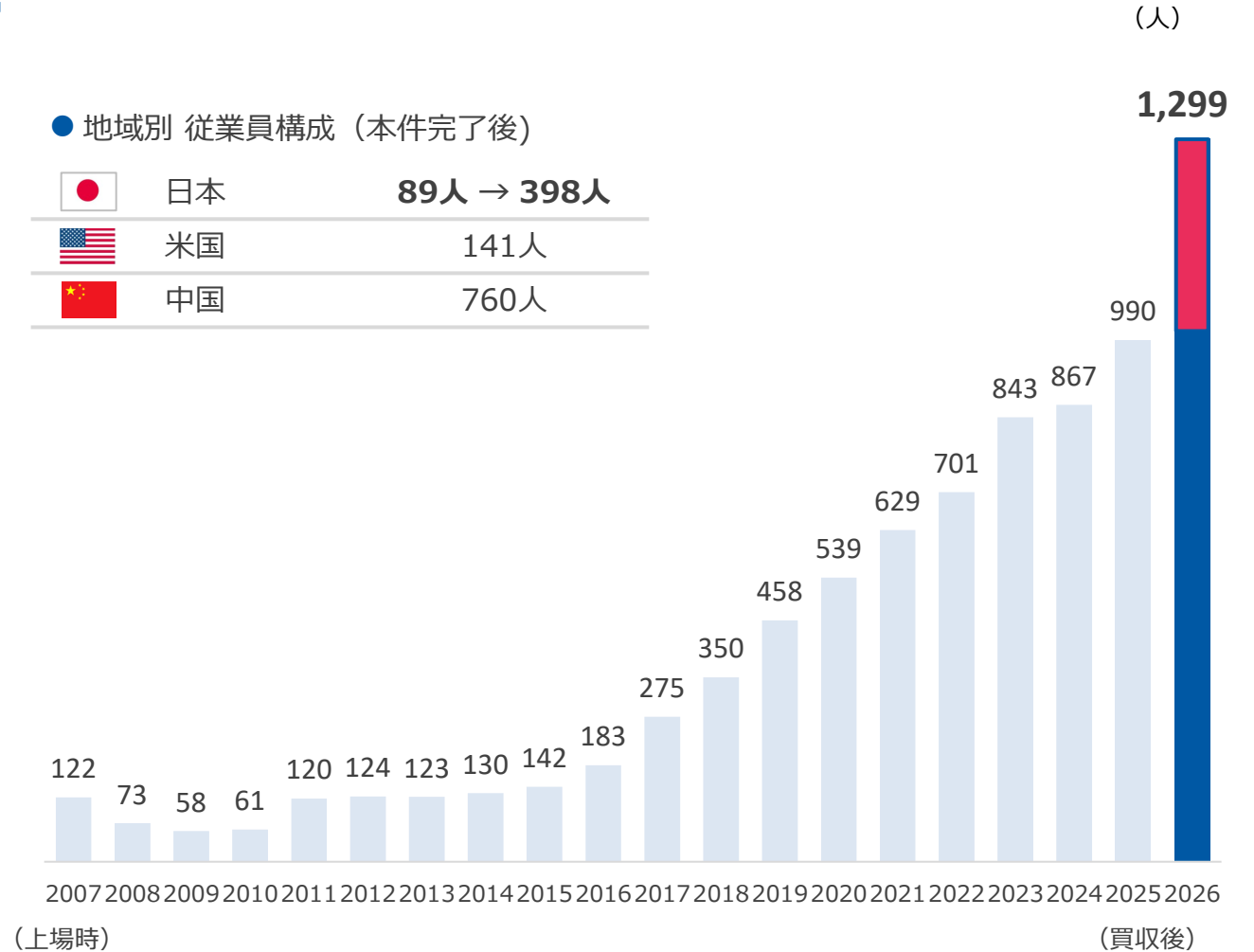
過去10年間で多数の新製品上市を
主導してきた津村社長のリーダー
シップと、経験豊富かつ
高度な専門チーム

日本国内における販売ネットワークの拡大 買収を通じ日本での拠点及び人員を大きく強化



● 地域別 従業員構成 (本件完了後)

● 日本	89人 → 398人
● 米国	141人
● 中国	760人

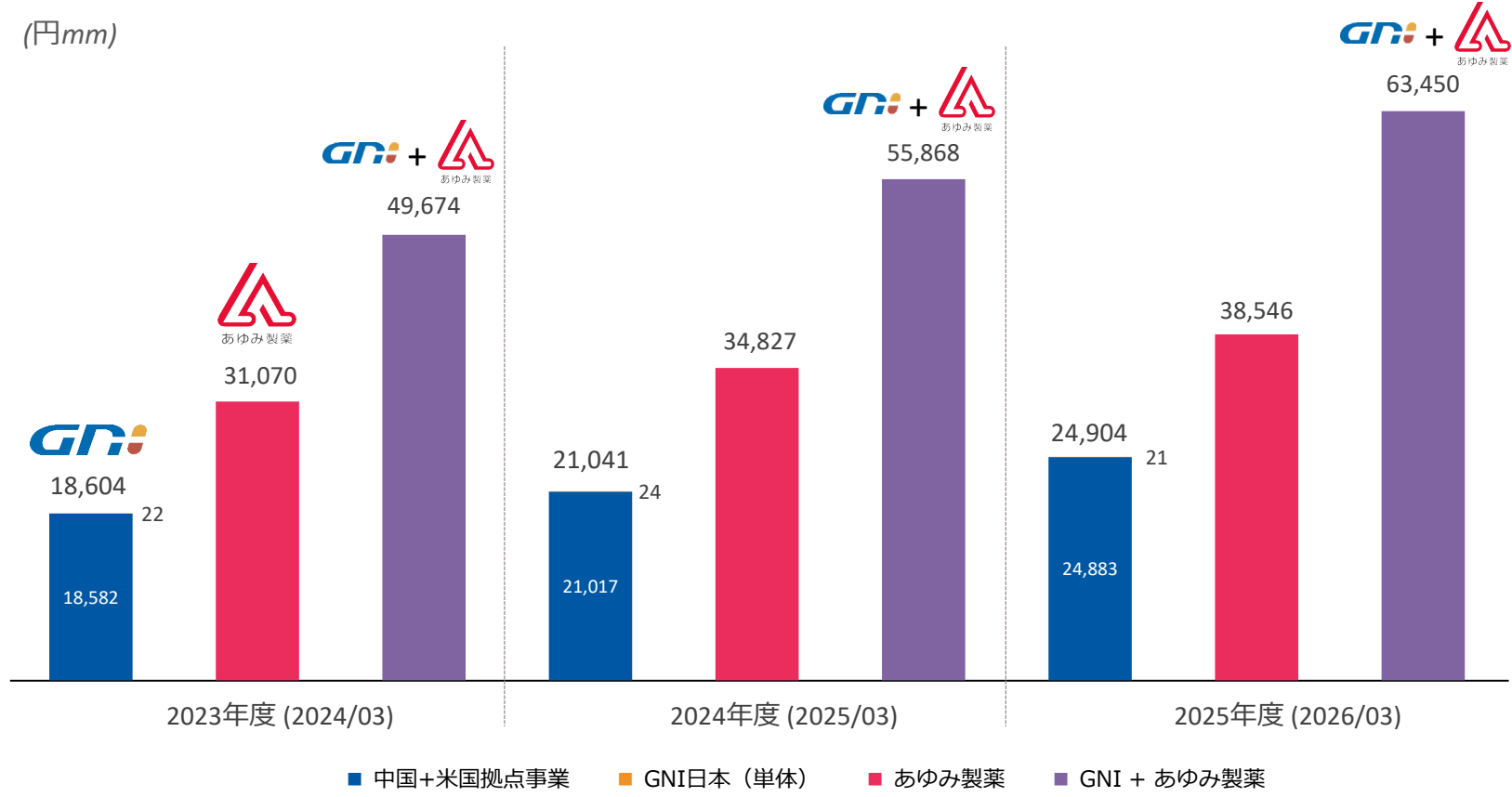


※連結従業員数は、各社の正社員数を基準に算出しています。本件完了後の従業員数は2025年12月期末時点の数値をもとに、あゆみ製薬の従業員数を単純合算して算出した参考値であり、買収完了後の実際の従業員数とは異なる可能性があります。

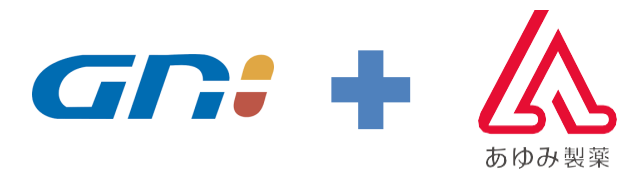
実行可能な成長戦略により、継続的な収益成長を高い確度で実現

あゆみ製薬の買収を通じ、中国・米国で収益を創出してきたGNIグループによる、日本における大規模かつ自立した医薬品プラットフォームを確立し、グループ全体の収益性の高い成長を牽引

好調な売上収益



成長戦略



- ① GNIの既存製品・パイプラインの日本市場における展開
- ② GNIのネットワークを活用したライセンス導入
- ③ F351上市+パイプラインの推進

注:中国事業 (Gyre Pharmaceuticals)、米国事業 (BAB+BB) はIFRS、日本GNI、あゆみ製薬はJ-GAAPに基づく。グラフは直近FY (GNIグループは12月期、あゆみ製薬は3月期)の財務状況を示しています。

本件完了後のパイプライン (GNI Group独自見解含む)

※開発内容及びスケジュールは、今後の進捗状況等により変更となる可能性があります。
また、下表に記載のあゆみ製薬の製品パイプラインは主要製品を抜粋したものであり、すべての製品を網羅するものではありません。

	製品 (一般名)	モダリティ ターゲット	適応症	フェーズ	対象地域	
 当社グループ	F528	低分子	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	非臨床	グローバル	
	F351 (ヒドロニドン)	低分子	MASHに起因する肝線維症	Phase 1	グローバル	
	アイスーリュイ (ビルフェニドン)	低分子		B型慢性肝炎に起因する肝線維症	NDA	中国
				特発性肺線維症 (IPF)	販売中	中国
				じん肺	Phase 3	中国
				放射線誘発性肺障害 (CIP有無を問わず)	Phase 2/3	中国
				皮膚筋炎に伴う間質性肺疾患 (DM-ILD)	Phase 3	中国
				全身性硬化症に伴う間質性肺疾患 (SSc-ILD)	Phase 3	中国
				糖尿病性腎臓病 (DKD)	Phase 1	中国
	F573	低分子	急性肝不全 (ALF)/慢性肝不全の急性増悪 (ACLF)	Phase 2	中国	
	F230	低分子	肺動脈性肺高血圧症 (PAH)	Phase 1	中国	
	CG001419	分解誘導剤 TRK	急性痛、慢性痛	Phase 1	グローバル	
	CG009301	分解誘導剤 GSPT1	固形がん	Phase 1	グローバル	
	CG923308	分解誘導剤 CDK2	がん (白血病、MYC)	Phase 1	グローバル	
CG620953	分解誘導剤 TYK2/ JAK1	乳がん、多発性固形がん	非臨床	グローバル		
非開示	DAC エピジェネティック因子	炎症性疾患	非臨床	グローバル		
非開示	DAC 翻訳因子	がん (前立腺、肺、膀胱)	基礎	グローバル		
非開示	分解誘導剤 cAMP制御因子	血液がん、多発性固形がん	基礎	グローバル		
 あゆみ製薬	カロナール (アセトアミノフェン)	低分子	線維化疾患	基礎	グローバル	
	エタネルセプトBS	低分子	疼痛、発熱	販売中	日本 ●	
	アダリムマブBS	バイオシミラー	関節リウマチ等	販売中	日本 ●	
	イグラチモド	バイオシミラー	関節リウマチ、炎症性腸疾患等	販売中	日本 ●	
	イグラチモド	低分子	関節リウマチ	販売中	日本 ●	
	タクロリムス (タクロリムス水和物)	低分子	関節リウマチ等	販売中	日本 ●	
	メトトレキサート	低分子	関節リウマチ	販売中	日本 ●	
	アザルフィジン (サラソスルファピリジン)	低分子	関節リウマチ等	販売中	日本 ●	
	リマチル (ブシラミン)	低分子	関節リウマチ	販売中	日本 ●	
	トシリズマブBS	バイオシミラー	関節リウマチ	承認取得済/上市準備中	日本 ●	
	非開示	低分子	関節リウマチ	承認申請前	日本 ●	
	非開示	バイオシミラー	疼痛/整形外科	承認申請中	日本 ●	
非開示	低分子	疼痛/整形外科	非臨床	日本 ●		
非開示	バイオシミラー	その他	承認申請前	日本 ●		

3. あゆみ製薬ホールディングス概要

あゆみ製薬ホールディングスの概要

患者様の「痛みのない暮らし」「明るい未来」を実現するため、整形外科領域のスペシャリティファーマとして安心、安全な薬の安定供給に貢献

■ 会社概要

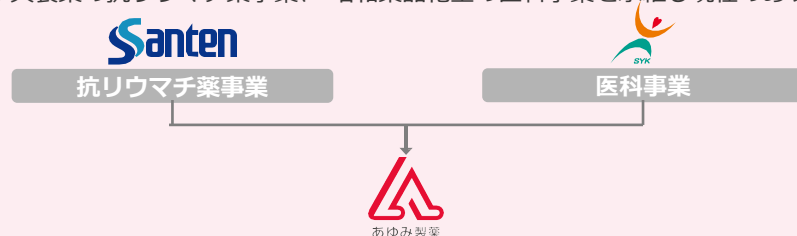
商号 : あゆみ製薬ホールディングス株式会社
 住所 : 東京都中央区銀座四丁目12番15号 歌舞伎座タワー19階
 代表者 : 津村 重吾
 設立 : 1948年¹
 従業員数 : 約309名(2026年6月1日時点、連結ベース・正社員のみ)
 事業内容 : 抗リウマチ薬、解熱鎮痛剤を中心とした医薬品の製造・販売等
 拠点所在地 : 東京本社、多摩川工場、厚木工場、瀬戸工場

経営成績及び財政状態：

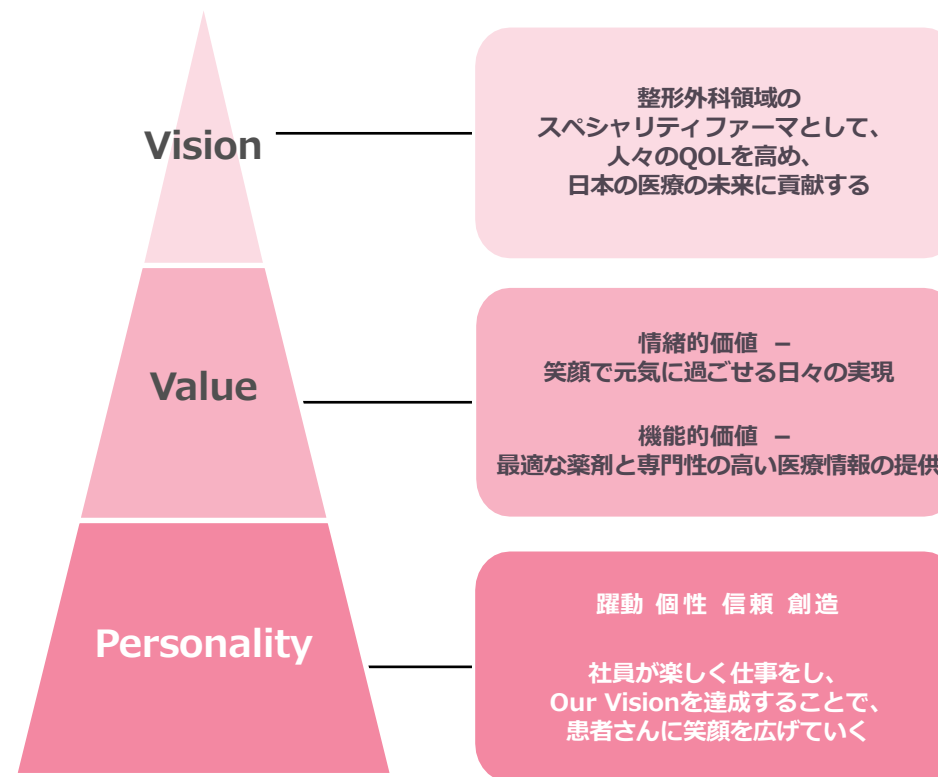
あゆみ製薬HD (IFRS) (百万円)				あゆみ製薬単体 (日本基準) (百万円)			
決算期	2024/3期	2025/3期	2026/3期	決算期	2024/3期	2025/3期	2026/3期
売上高	31,066	34,792	38,543	売上高	31,070	34,827	38,546
営業利益	404	5,452	6,206	営業利益	1,571	2,068	3,515
純資産	26,347	28,947	32,170	純資産	22,166	21,856	18,757
総資産	116,798	115,014	109,031	総資産	113,052	107,623	93,919

会社設立経緯：

2015年 参天製薬の抗リウマチ薬事業、昭和薬品化工の医科事業を承継し現在のあゆみ製薬が誕生



■ 経営理念



1. 昭和薬品化工株式会社の設立年。あゆみ製薬ホールディングス株式会社の設立は2019年3月

あゆみ製薬ホールディングスの製品ポートフォリオ

売上構成



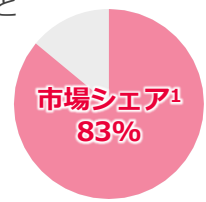
トップシェア製品が占める割合 79%

事業領域

- ①疼痛領域、②リウマチ領域及び③製造受託領域の3領域から構成
- トップシェア製品などの優れた製品ポートフォリオを保有

疼痛領域

国内解熱鎮痛薬市場におけるアセトアミノフェン（AAP）領域にて **圧倒的なシェアを有するカロナールを保有**
 整形外科領域における急性/慢性疼痛や術後疼痛、発熱管理など幅広い医療シーンで使用される



受託製造領域

ペニシリン系抗生物質製剤の国内唯一のCMOであり、製薬企業7社から製造を受託

リウマチ領域

幅広い関節リウマチ治療法に対応できる製品ポートフォリオを有する唯一の日本企業
 従来の経口薬からバイオ医薬品まで幅広くカバー

メトトレキサート錠「あゆみ」 (No.1)



タクロリムス錠「あゆみ」

アザルフィジン[®]EN錠

リマチル[®]錠 (No.1)

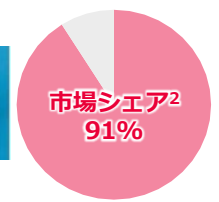
イグラチモド錠「あゆみ」

エタネルセプトBS「MA」 (No.1)



インフリキシマブ[®]BS「あゆみ」

アダリムマブ[®]BS「MA」



1.あゆみ製薬からの資料に基づく当社分析：アセトアミノフェン（経口）市場における薬価ベースの金額シェア、2024年4月～2025年3月
 2.あゆみ製薬からの資料に基づく当社分析：関節リウマチを適応とするエタネルセプトのバイオシミラー製品における販売高（数量ベース）のシェア、2024年4月～2025年3月

あゆみ製薬ホールディングスの強み

整形外科領域に深く根差したコマーシャルプラットフォームを武器に、カロナールおよびリウマチ領域の長期収載品・バイオシミラーを含む後発医薬品を展開し、高いシェアを獲得しているスペシャリティファーマ



日本全国の医療機関に対する強固な販売ネットワーク

- カロナールやリウマチ領域の製品など、臨床現場で広く採用される製品ポートフォリオを持つ
- 日本全国の病院や開業医など、幅広い販売網を活用した新製品の認知拡大および市場浸透が強み



疼痛領域でのカロナールを軸とした存在感と成長ポテンシャル

- 国内アセトアミノフェン市場において圧倒的なシェアを有し、トップポジションを確立
- カロナールは独自の製品特性と強固な競争優位性に加え、ガイドライン推奨および効能拡大を背景に、持続的かつ高い売上成長を実現



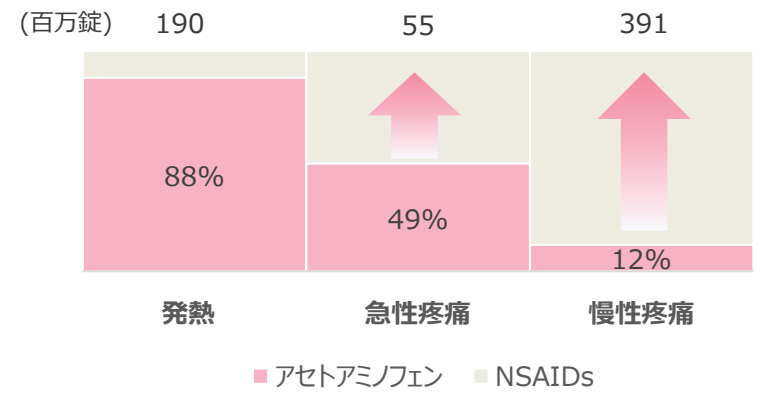
リウマチ領域における圧倒的な販売力と製品ラインナップ

- 既に複数のバイオシミラー製品を保有しており、既存の販売基盤を活用した展開が可能
- 今後も新規バイオシミラー製品の拡充を予定しており、ポートフォリオ拡大による事業成長が期待される

あゆみ製薬ホールディングスの主力製品「カロナール」の成長性

カロナール（アセトアミノフェン）は、コロナを機に高まった安全性認知拡大を背景に、
今後は疼痛領域におけるNSAIDsからの大きな置換余地が存在

解熱鎮痛剤の疾患別処方錠数（2025年）



アセトアミノフェンの中長期成長性

① 安定的な処方基盤

- 解熱領域において、アセトアミノフェンは処方錠数の約88%を占め、NSAIDsを上回る圧倒的なポジションを確立
- 30年以上の処方実績とコロナ禍を契機とした認知拡大により、安定的な需要を維持


② 疼痛領域での高い成長余地

- 適応拡大およびガイドライン整備、用法・容量に関する理解の進展を背景に、疼痛領域での処方量は増加基調
- 変形性関節症・術後疼痛等でのエビデンス蓄積により、疼痛領域での更なる採用拡大が期待される

③ 高齢化を背景としたNSAIDs代替需要の拡大

- 高齢化に伴い、胃潰瘍・腎機能障害等の副作用リスクを有するNSAIDsからの切り替え需要が拡大する可能性
- 安全性ニーズの高まりを背景に、中長期的なシェア獲得余地を有する

あゆみ製薬HDのカロナールの市場シェア


83%
国内アセトアミノフェン市場では圧倒的No.1

強固なパイプラインが新たな分野での成長を牽引

進行中のパイプライン

領域	カテゴリー	想定上市/販売タイミング				契約・開発ステータス	製品導入の戦略・意義
		27/3期	28/3期	29/3期	30/3期以降		
リウマチ	トシリズマブBS	■				製造販売承認取得済	✓ エタネルセプトBSにおける圧倒的な販売拡大実績を、新規上市したトシリズマブBSでも実現
	GE		■			契約締結済	✓ 製造販売権の獲得によるリウマチ領域内のプレゼンス強化・ポートフォリオ拡充
疼痛・整形	BS		■			販売権取得申請済み	✓ 新規参入した骨粗鬆領域のプレゼンス拡大
	新薬				■	独占交渉権獲得済み	✓ 疼痛領域のポートフォリオ拡充及びパイオニア企業との戦略的パートナーシップ構築
その他	BS			■		販売権取得申請準備中	—

投資検討・評価中のパイプライン



1. 想定上市タイミングは当社の計画であり、実際には上市されないか、または上市されたとしてもそのタイミングが大きく異なる場合がある

4. ジーエヌアイグループ概要

ジーエヌアイグループの概要

グローバル展開

中国、米国市場を活用し、日本本社から持続的な事業成長を実現するグローバルバイオ医薬品企業

主要事業拠点：日本、中国、米国、豪州
 会社数：26社
 従業員数：990名（2025年12月末時点）

事業構成

①製薬事業②創薬事業③医療機器事業
 重点疾患領域：線維症、疼痛、がん、整形外科

研究開発と販売

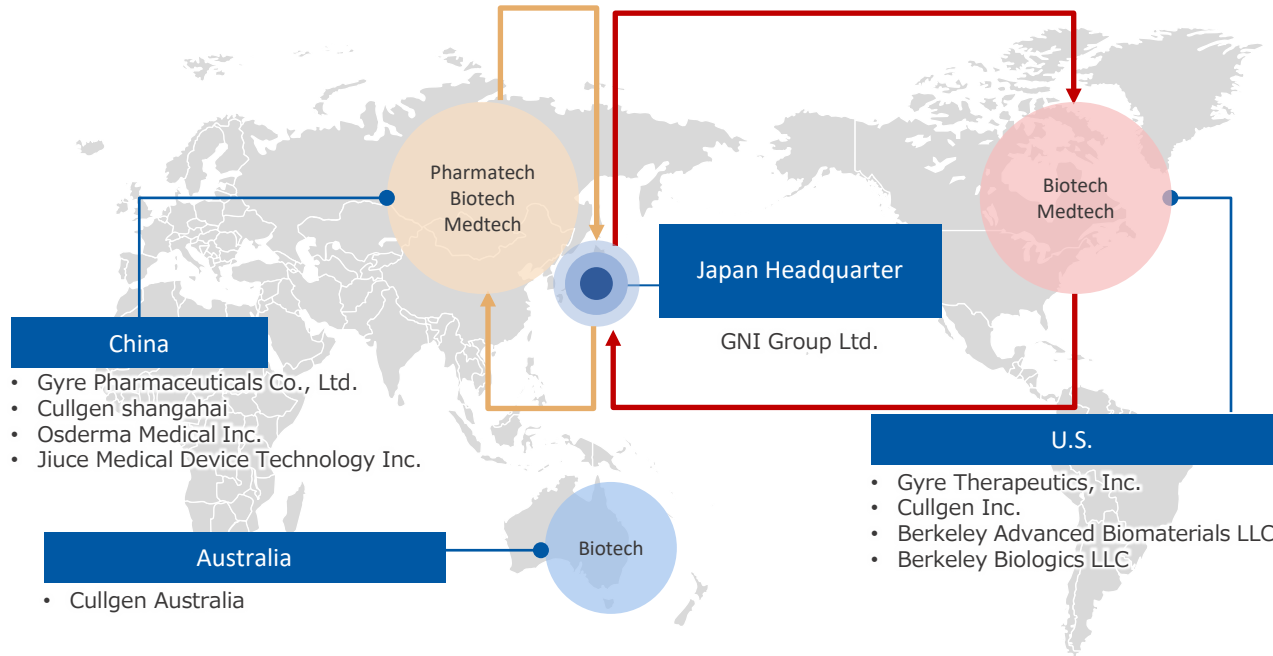
開発中のパイプライン及び上市製品：23
 中国における病院等の販売網：3,000
 中国におけるMR人数：400名

中国

- 臨床試験から販売まで一貫して担う垂直統合型モデル
- 実績ある販売・マーケティングチームの確立
- 時間・コスト効率化のためのPOC試験実施体制
- GMP準拠の高品質製造施設の保有

日本

- グローバル本社及び東証上場拠点
- グローバルに連携したイノベーション・エンジンの構築
- グループ各社との戦略的連携強化による相乗効果の創出



オーストラリア

- 創薬事業の臨床試験実施拠点

米国

- Gyre Therapeuticsの上場拠点（Nasdaq: GYRE）
- Gyre及びCullgenの本社&研究開発拠点
- メドテック事業の生体材料販売・研究開発・製造の拠点

ジーエヌアイグループのあゆみ

2001

創業

日本を拠点に遺伝子解析による創薬を目的として創業

ジーエヌアイグループは、2001年に日本法人として渋谷区に設立され、遺伝子解析技術を活用した創薬を目的に事業を開始いたしました。創業初期より、日本を拠点としながら、海外の研究者・研究拠点とのネットワークを活用し、ライフサイエンス領域における研究開発を行ってまいりました。

2014

初の上市

自社製薬製品販売へ、海外で成長

主力製品であるアイスーリュイの承認・販売開始を契機に、海外において製薬事業としての収益基盤を確立し、研究開発から製造・販売までを担う統合的な事業体制を構築してまいりました。

アイスーリュイが画期的治療薬として新薬承認を取得
北京コンチネント社を子会社化（中国）

Cullgen社を設立（米国）

Gyre Therapeuticsが米国ナスダック市場に上場（米国）
BB社を設立（米国）

F351の第3相臨床試験で良好な結果を公表（中国）
ZOO LABO社を子会社化（日本）

F647（ピルフェニドン）の肺線維症を適応症とする第1相臨床試験を開始（中国）

2007

東証上場

その後、当社グループは東京証券取引所マザーズ市場に上場しました。上場後、世界的な金融危機の影響により、当社グループは厳しい事業環境に直面しました。現CEOであるイン・ルオのリーダーシップのもと、当社グループは遺伝子解析から創薬へと事業の軸足を移し、事業の選択と集中を進めるとともに、経営基盤の再構築に取り組みました。

BAB社を子会社化（米国）

F351が画期的治療薬として指定（中国）

F351の新薬承認申請（NDA）を提出（中国）

2026

日本を起点とした第二創業期

日本国内の事業基盤を拡充し、グローバルバイオ製薬企業へ

日本に拠点を有する当社を親会社とし、製薬・創薬・メドテックの海外拠点事業を成長させる中で、日本に商業基盤を構築する事は当社の原点であり、長年の目標でした。あゆみ製薬、歯科技工のZOO LABOは当社にとって、日本における事業基盤を強化する重要なパートナーです。日本発のグローバルバイオ製薬企業として、国内外の事業基盤を活かした持続的な成長を目指してまいります。

ジーエヌアイグループの事業内容

当社の業績を牽引するPharma事業は、すでに上市済の特発性肺線維症の治療薬「アイスーリュイ」の販売と、B型肝炎由来の肝線維症治療薬「F351」の開発を中心に展開

	Pharma	Biotech	Medtech
主な子会社	<ul style="list-style-type: none"> Gyre Therapeutics (Nasdaq : GYRE) 北京コンチネント薬業有限公司 	<ul style="list-style-type: none"> Cullgen Cullgen Shanghai Cullgen Australia 	<ul style="list-style-type: none"> Berkeley Advanced Biomaterials Berkeley Biologics ZOO LABO
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 中国にて初の特発性肺線維症 (IPF) 治療薬であるアイスーリュイを開発し、2014年より中国にて販売開始 <ul style="list-style-type: none"> Gyre Therapeutics, Inc.が「画期的治療薬」指定の慢性B型肝炎に起因する肝線維症治療薬「F351」をはじめとした医薬品の開発を推進中 <ul style="list-style-type: none"> F351は現在、中国において優先審査制度のもと、新薬承認申請 (NDA) の審査段階 	<ul style="list-style-type: none"> Cullgenにて、従来の低分子薬では制御が困難だったタンパク質の分解・除去を可能にした「uSMITE™」*の技術を独自開発 標的たんぱく質と細胞内のユビキチン-プロテアソーム系 (UPS) を結びつける低分子化合物を設計することで、疾患に関与するたんぱく質を細胞内で選択的に分解 従来の治療法では困難であった疾患に対する新たな治療アプローチを行う 特にがん、炎症、痛みなどの領域に注力しており、幅広い分野において、次世代の治療薬の開発を推進中 	<ul style="list-style-type: none"> 主に米国および中国でオーソバイオロジクス製品の製造販売を実施 骨や関節、皮膚等の疾患や損傷のような整形外科領域において、主に生体由来成分や合成成分を用いて、組織の修復や再生を促進させる治療分野 整形外科、スポーツ医学、歯科などの分野で同種移植片インプラントを提供 <ul style="list-style-type: none"> 2025年12月には歯科技工物を全国の歯科医院に供給するZOO LABO (神奈川県) を完全子会社化 生体材料技術を美容分野へも応用

*uSMITE™=ubiquitin-mediated, Small Molecule Induced Target Elimination

これまでのジーエヌアイグループ° (2025年)

日本本社の運営は効率的なものの、リソース投下による更なる成長余地がある

東証に上場する成長性の高いグローバルバイオ製薬企業

ジーエヌアイグループ

グローバル本社
(2160.T)

Gyre Therapeutics

製薬
(GYRE.US)
マジョリティ保有 80%¹

Cullgen

創薬
39.6%保有

BAB

メドテック
完全子会社

グローバルR&Dと戦略的M&Aによる拡大

4

重点を置く疾患領域²
線維症/疼痛/がん/整形外科

1,000+

経験豊富かつグローバルな社員²

3

主要な事業拠点
中国/米国/日本

26

子会社・関連会社²
グループビジョンの共有による
経営の自律性

革新的な創薬から収益性の高い事業化に至った実績

23

体系化された研究開発パイプラインと販売製品²

3,000+

中国の病院・薬局との包括的な販売ネットワーク²

268億円

(179百万ドル³)
FY2025 グループ売上収益

33.6%

高い売上収益CAGR (FY2017-225)
(2017年のアイスーリュイ保険収載以降)

1. 希薄化前ベース (2025年5月30日時点)
2. 2025年12月31日時点 3. JPY/USD 149.61円 (2025年AR)

これからのジーエヌアイグループ° (2026年) 日本における売上収益はグループ全体の2/3超となる見込み

東証に上場する成長性の高いグローバルバイオ製薬企業

ジーエヌアイグループ

グループ会社
(2160.T)

Gyre Therapeutics

創薬
(Nasdaq: GYRE.US) 保有率 70%¹

あゆみ製薬ホールディングス

製薬
100%子会社

BAB + ZOO LABO

メドテック
100%子会社

グローバルR&D及び戦略的M&Aによる拡大

5

重点を置く疾患領域
線維症/疼痛/リウマチ/
がん/整形外科

~1,400

経験豊富かつグローバルな社員

3

主要な事業拠点
中国/米国/日本

28

子会社・関連会社
グループビジョンの共有による経
営の自律性

革新的な創薬から収益性の高い事業化に至った実績

31

体系化された研究開発
パイプラインと販売製品

3,000+

中国の病院・薬局
との包括的な販売ネットワーク

~652億円

(~420百万ドル²)
FY2026グループ売上収益
(あゆみ製薬の年間売上収益を反映した場合)

~42.8%

高い売上収益CAGR (FY2017-26)
(2017年のアイスーリュイ保険収載以降)

1.希薄化前ベース (2026年5月時点)
2. JPY/USD 155.0円 (2026年予想AR)

自社開発パイプライン (GNI Group独自見解含む)

*開発内容やスケジュールは進捗状況により変更される可能性があります。

製品 (候補)	モダリティ ターゲット	適応症	対象地域	基礎	非臨床	第1相	第2相	第3相	NDA	上市	開発進捗
F528	低分子	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)	グローバル	■							2027年Q1 IND申請予定
F351 (ヒドロニドン)	低分子	MASHに起因する肝線維症	グローバル	■							2027年 IND申請予定
	低分子	B型慢性肝炎に起因する肝線維症	中国	■							2026年5月 NDA申請受理
アイスーリュイ (ピルフェニドン)	低分子	特発性肺線維症 (IPF)	中国	■							
	低分子	じん肺	中国	■							2026年Q3 第3相試験完了予定
	低分子	放射線誘発性肺障害 (CIP有無を問わず)	中国	■							2026年Q1 第2/3相第1例被験者登録完了
	低分子	皮膚筋炎に伴う間質性肺疾患 (DM-ILD)	中国	■							
	低分子	全身性硬化症に伴う間質性肺疾患 (SSc-ILD)	中国	■							
	低分子	糖尿病性腎臓病 (DKD)	中国	■							
F573	低分子	急性肝不全 (ALF)/ 慢性肝不全の急性増悪 (ACLF)	中国	■							
F230	低分子	肺動脈性肺高血圧症 (PAH)	中国	■							2026年Q4 第1相臨床試験完了予定
標的タンパク質分解誘導剤/ DAC											
CG001419	分解誘導剤 TRK	急性痛、慢性痛	グローバル	■							2026年Q2 第2相開始予定 (米国)
CG001419	分解誘導剤 TRK	固形がん		■							2027年Q4 第1相完了予定 (中国)
CG009301	分解誘導剤 GSPT1	がん (白血病、MYC)		■							2027年下半年 第1相完了予定 (中国)
CG923308	分解誘導剤 CDK2/ Cyclin E	乳がん、多発性固形がん		■							2027年Q1 IND申請予定 (米国/中国)
CG620953	分解誘導剤 TYK2/ JAK1	炎症性疾患		■							2027年Q1 IND申請予定 (中国)
非開示	DAC エピジェネティック因子	がん (前立腺、肺、膀胱)		■							
非開示	DAC 翻訳因子	血液がん、多発性固形がん		■							
非開示	分解誘導剤 cAMP制御因子	線維化疾患	■								

お問合せ先: 株式会社ジーエヌアイグループ インベスターリレーションズ

 : IR@gnipharma.com
 : www.gnipharma.com

本資料に記載されている、意見や予測、今後の見通し等は、当社グループが、資料作成時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受け、大きく変動することもあります。従いまして、実際の業績及び戦略等につきましては、この配布資料に記載されている内容とは、大きく異なる可能性がございますことを、予めご承知おき下さい。また、事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。

